○はじめに

こんにちは，小山でございます。

皆さま、本日はお忙しい中、「生成ＡＩフォーラム２０２５」にご参加いただき、誠にありがとうございます。このように多くの経営層の方々からＤＸ推進の最前線で活躍されている皆さまにお集まりいただき、大変嬉しく思います。

また、講演や展示にご協力いただいた各企業の皆さまのご尽力により、本イベントが実現しましたことに、心より感謝申し上げます。

○フォーラムの目的

さて，私たちは今、生成技術の急速な進化という、大きな波の中にいます。ＩＴ技術を振り返ると，このような波は、これまでいくつかありました。まずは大型コンピューターの開発から始まり，パソコンの普及，メールの活用，スマホ，そしてＳＮＳの普及などです。これらの大きな波と波の間隔はどんどんと短くなってきていますが，逆に影響は大きくなってきています。

そして，今は生成ＡＩです。これもまた、私たちの働き方や事業のあり方そのものを大きく変える可能性がありますし，現実には変えつつあると言って良いかと思います。

数年前に ChatGPT が一般公開されました。その時には私はちょっとうさん臭い目でこれを見ていましたが，その後の生成ＡＩの発展は加速の一途をたどっており、その能力が驚異的に向上し，活用の場も大きく広がっていることに気づかされました。

なお，この原稿もＡＩを使っていますが，そのままで十分大丈夫なのですが，何とか私の個性のひとかけらでも入れたいと，努力をしています。何度か同じようなことを繰り返せば，ＡＩはそれを学習し，もっと良い原稿になると思います。

○東北電力グループのＤＸ計画と AI 活用

さて，中長期ビジョンにおける２０３０年代の有りたい姿実現に向け，「２０２５年度東北電力グループＤＸ推進計画」で，グループとして目指す変革の道標，「あらゆるビジネスシーンで、最新のデータ・デジタル技術を最大限活用する」という「ＤＸ北極星」を明文化しました。

具体的には，既存業務の断捨離等を行い，私たちの時間を高度な技術の獲得や創造的な業務にシフトして“グループ人財価値の最大化”を図

り，また，ＣＸ，カスタマーエクスペリエンス，顧客体験の向上等により，選ばれ続ける企業グループとなることで収益の拡大を目指します。そして，現場作業の高度化とグループおよび関連する方々の安全を確保していきます。

これらは既存のＩＴツールを徹底的に使いこなすことは勿論ですが生成ＡＩの活用も重要となります。生成ＡＩは決してレアなものではなく，スマホやメールと同様にグループ各社の経営層から現場の皆さま全員に十分活用いただくことが必要となります。

ただし，私の話だけではまだ不十分でしょう。そのため，本日のフォーラムでは，まず，福原先生，松瀬さまに生成ＡＩについてのご講演をいただきます。お二方とも世界的なレベルでご活躍しておりますので，生成ＡＩの最先端の状況やこれからの可能性などについて，重要なご示唆をいただけます。

また，その後，当社の事例紹介と，株式会社エクサウイザーズさま，ＴＯＰＰＡＮエッジ株式会社さま，ＮＴＴコミュニケーションズ株式会社さま，グロースジャパンテクノロジーズさま，株式会社ＥＱＵＥＳ（エクエス）さま，株式会社Ｒｅｃｕｒｓｉｖｅ（リカーシブ）さまにご協力をいただき，ＡＩ製品を展示しておりますので，是非，実際に手に触れて体験してください。

このフォーラムが皆さまの今後のご活躍と成長にお役立ちすることを祈念しまして，私からの挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以　上